

編集後記

2008年に出された UNSCEAR の報告書において、我が国の医療放射線被ばく線量が世界各国と比較して高いことが指摘された。これを受け日本学術会議から「CT 検査による医療被ばくの低減に関する提言」が出され、医療被ばくの低減に向けた今後の方向性が示された。平成30年度の診療報酬改定で被ばく管理が前面に登場し、「被ばく管理元年」と言われている。また、厚生労働省内に「医療放射線の適正管理に関する検討会」を設置し、2020年に医療法施行規則に追加される「医療放射線に係る安全管理」に関する検討が行われて、線量の最適化として我々診療放射線技師の役割が重要になっていくことが予想される。

今年度の第8回東北放射線医療技術学術大会は、盛岡市で開催された。前回は初めての技術学会と技師会の合同開催でしたが、3月に発生した東日本大震災の影響が残る中の開催となった。今回は、合同開催の二回目となり、今後の方向性を示す良い大会であった。シンポジウムでは「放射線検査室における検査説明と相談」と題して5人の講師の方に、検査結果に大きな影響をあたえる検査内容を患者さんに理解していただく工夫を講演していただいた。特別講演では、診療放射線技師であり、社会福祉士・介護支援専門員の原田 淳也先生に「放射線検査と受信者コミュニケーションを考える」と題して受診者とのコミュニケーションの重要性や方法をわかりやすく講演していただいた。ソリューションカンファランスやテクニカルミーティングは、日常業務に関する問題点や診療に必要な技術と知識について討論が行われ、非常に有意義な内容だった。一般演題も100題を超え、多くを後抄録として東北支部雑誌に掲載することができた。また、昨年度から技師会のみ会員の方にも執筆していただいている。原稿を提出していただいた方々に、この場を借りて御礼を申し上げる。

診療放射線技師や画像診断を題材とした「ラジエーションハウス」という漫画がある。すでに読まれた方も多いことと思う。第1話で「L'essentiel est invisible pour les yeux.(大切なものは目には見えない) 見えているものだけが世界の全てではない、見えないのは・・・見ようとならないからだ・・・写そうと努力すれば写すことができる」私たちの撮影した画像で医師は診断を下す。いくら名医でも画像に写っていないものから病気を見つけることはできない。そのため、私たちは常にスキルアップに努めなければならない。この雑誌がその一助になれば、幸いである。(S.T)

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北支部 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号 東北大学病院 診療技術部放射線部門内
電話	022-717-7418
F A X	022-717-7430
発行人	坂本 博
発行日	平成31年1月31日

